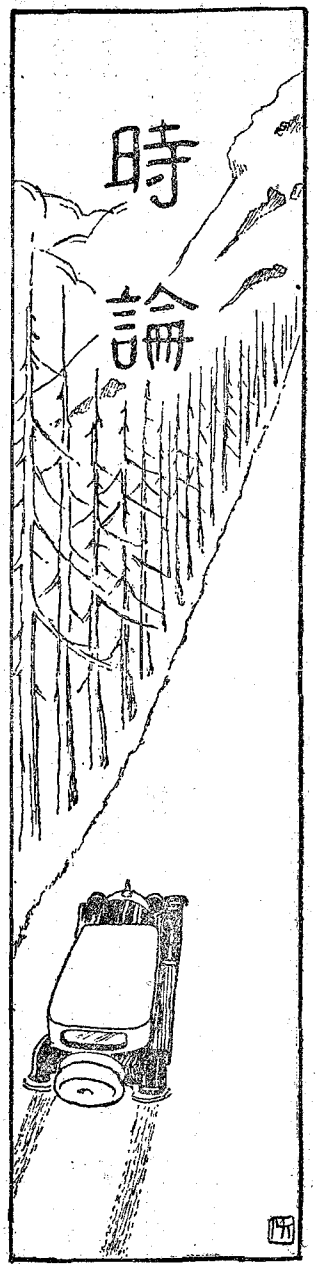

大朝の産業道路補助論を評す

田中好

十一月十二日發行大阪朝日新聞は、其の社説に於て産業道路に關する國庫補助制度を論じ之が實行に際して世の警戒を求めた。社會生活に必要な道路問題も聊こもすれば世上から忘れられむこし若くは輕視されむこするのこき、同紙がこの問題を捉へて世人の注意を喚起したのは路政に關係する吾々の多こする所であるが、其の所論は果して事の眞相を摑み得てゐるものであるか、以下少しく卑見を述べて社説の當否を吟味したい。

同紙は從來から道路費國庫補助制度あるに拘はらず、こゝに改めて産業の開發促進の爲こ言ふ特定の目的を設けて産業道路の改良を强調するのは、そこに此計畫の特長こ缺陷のあるこを看過してならぬこ言ひ、之を産業道路補助こ言

ふに至つたのは從來の計畫が會々地方産業の開發を無視して、專ら地方黨勢擴張の爲めに利用されてゐたことを證明するものであると斷言してゐる。が併し此斷定を得るまでには尠くとも我が道路法を一瞥して道路政策を達觀する必要があらう。我國道路政策は歐大陸の道路發達史が物語るやうに國家生活上必要な道路を以て第一位とし、地方交通上必要な道路を之に相次ぐものとして諸般の事項を定めたものであつて、之に對しては尠くとも現時に於ては何人も異論の無い所であらう。從來の道路費國庫補助政策は第一位の道路を改修することを主眼とした、換言すれば國家生活上必要な國道及其他特殊道路の改良を唯一の目的としたのである。固より是等の道路も同紙が言ふが如く、重要な交通機關であつて地方産業の開發促進を圖るものには違ひはない。併しながら其の道路を設定した直接の主要目的は國家生活の維持にあるのであつて、地方産業の開發促進を直接の目的とするものではない唯だ夫れは附隨的の效果に外ならないのである。從つて夫れと主從を顚倒する換言すれば地方産業の開發を直接の目的とする道路を、第一次の道路と區別するが爲に之を産業道路と稱したに過ぎないのであつて、之を命名し計畫したことは直ちに同紙が言ふやうに、從來の道路計畫が地方産業の開發を無視したことを爲らぬ筈である。假令無視したことがあつたにしてもそれは目的が違ふ當然の結果であると言はねばならぬ。試みに從來の道路費國庫補助制度の下に改修を助勢された道路を見ると、國内交通幹線に屬するものであつて、古來から天下の難路危所と稱へられたるもの、若くは阪神間國道の如く近代交通が改良を要求するに至つたもの等、何人の見地に於てするも其の事業が地方産業の開發促進に多大の效果を擧げてゐる顯著な事實は今更疑ふ餘地が無いのであつて、會々之を以て地方黨勢の擴張に利用した者があつたにしても、夫れが當然に産業を無視した道路政策であると云ふ結論を得られないのである。

同紙は自動車の普及發達によつて道路の重要性が倍加したに反し、鐵道の普及を黨勢擴張に利用する餘地が無くなつ

たから、鐵道より道路に乘り換へ亂雜な道路政策を實行するものであると言つゐる。黨勢擴張に利用するや否やの問題は後に之を說く。併しながら道路の存在を前提とし始めて交通上多大の價値を有する自動車の爲に道路を改良することは刻下の緊要事であつて、幹線鐵道の營養たるべき鐵道を普及せしむるよりは一層重要な事柄である。此時代の趨勢に察して政黨が從來高調した鐵道政策から道路政策へ乘り移るのは寧ろ當然であつて敢て怪しむに足らない、國民生活に自動車の效用を利用するの緊急なるに鑑みるときは、從來のやうな第一次道路の改良だけを以てしては十分でない、ここに於て國家生活上必要な國道の改良と相並んで、地方產業の開發上必要な道路を改良するは慥かに時代に適應した政策であつて、、吾人は寧ろ其の計畫を樹立することの遲かつたのを恨むのである。

今回樹立された所謂產業道路計畫は、大阪朝日が憂ふるやうに亂雜不統一なものであるか少しく驗してみたい、政府は曩に重要府縣道を指定して之が改良を助勢した、夫れに依ると市又は二千以上の集團戶數を有する地區から重要港灣又は樞要停車場に達する道路、重要港灣と樞要停車場を連絡する道路及數個の樞要地を連結する重要な幹線であつて指定樞要地重要港灣又は樞要停車場に達する道路を選定した。之が延長は七千里を算してゐる、之を地方交通の實情に照して見ると尙不足の感がある。此內最も重要なもの千五百里を十箇年間に改良せむとするのであつて、假令是等道路の全部を改良しても、論者が引例した英國に於けるやうな道路費裁量問題を起さないのである。論者の言ふ英國の事例は或は彼の戰後失業救濟に依る道路事業の緊縮整理を指すのであらうが、近時英國は二等道路に對する國庫補助率を增加して地方道路の改良に盡してゐることは、我國に於ける產業道路計畫と全然同一であつて、論者の言は當つてゐない。

論者は又產業道路計畫を目して各個が連絡統一を缺き、國家の道路政策も亦自動車といふ新交通機關の出現に脅され

て宇宙に迷つてゐること言ふが、以上述べた産業道路を國道に配して作り上げられた道路網を一瞥すれば、其の所論の誤であることこと自ら明かこと爲るであらう。又論者は自動車を考慮しない道路政策こ評してゐるが、幸か不幸か我國の道路政策の樹立は、自動車の發達後に屬し其の計畫構造何れも自動車を基調したことは餘りに明白なことであつて、敢て評論する迄もない位である。

路上交通機關こしての自動車が發達したが爲めに、從來主張した鐵道本位の交通政策を改めて道路本位の政策を强調するのは時代の趨勢にして、假令政黨が之を主張しても敢て咎むべきでない、寧ろ當然のことであるこ言はねばならぬ唯だ注意を要するのは朝日新聞が論ずるやうに路上交通の現在こ將來こに卽して實行せなければならぬ道路事業の取捨選擇に方つて、地方政黨の權勢に左右せられない一事である。此事に就いては吾人は朝日こ全然所感を同じくするのであるが、其の所論は我國道路政策の大綱を見るに餘りに吝にして産業道路計畫の詳細を極めず、唯だ政黨が産業道路問題を以て黨勢擴張に利用するやを慮るに急であることを遺憾こする、固より吾人は如何なる政黨に對しても恩怨關係を有するものではない、殊に政友會の高調する産業政策の總てに贊成するものではないが、至純な交通政策の見地から樹立せられた産業道路助勢策を以て政黨の奸策に出でたものゝやうに論評するのを憾こし、關西に於ける斯界の重鎭にして尙且つ此の如き見解を持するかこ思はば寔に慨歎に堪へない、敢て一文を草して世の誤解を避く。